

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
2	あいご	相後	39609	四万十町	十和	あいこ(戸)があいごに転じたもの。	
5	あいざれ	相去	39609	四万十町	大正	山間の低湿地で、その土地がすずれ(崩がけ)の多くあるところ。 ざる→ざれ。	
13	あきまる	秋丸	39609	四万十町	窪川	秋は、土地の良いところ、明るい円形の丘陵地。	
52	いちうばら	市生原 一生原	39609 39703	四万十町 宿毛市	窪川	宿毛市小筑紫の石中原のように、石地の開き地からで、窪川町(※四万十町)の高加茂神社がある市生原も同じ意。	
53	いっとひょう	壹斗俵	39609	四万十町	窪川	①収量で反別をいう地名(鏡味説)。甲把瑞益編著『仁井田郷談』によると、この付近を開いて、一斗俵の米を国造に献じたことによるとある。瑞益は名医で、墓は中村市正持院の山上にある。 ②石地の峠のひょう(標)(例)中村市(※四万十市)上ノ土居たろうびょう。	
59	いまなり	今成	39609 39702	四万十町 四万十市	十和	この地名は各地にあり、今(新)できた意で、成は開き地、新開と同じ意。なり・なる(傾斜地)(鏡味説)。 <参考>古語で産業を(なり)	
70	うおのかわ	魚の川	39609	四万十町	窪川	ゆお→うお 魚の住んでいる川ではなく、石川。(例)中村市(※四万十市)片魚	
87	うらごし	浦越	39609	四万十町	十和	川の向い側の越えるところから	
92	えし	江師	39609	四万十町	大正	「師」は湿地、谷地の小川のある意、冷泉の湧くところ。 <方言>しうける(湿地になった)	
93	えだおりやま	枝折山	39609	四万十町	窪川	昔の生活道は、尾根道が使用されている。これは歩く距離の短いことや、安全、方向を見定める点などで有利と思われる。尾根の自然神の嗣などに、枝を折って献じたことによる。	
94	えっきょう	越行	39609	四万十町	窪川	南国市八京など京は、山峡の意で、がけ岩のある山の峡、その江津(舟付場)。「行」は行事・経に関係がない。	
119	おおどう	大道	39609	四万十町	十和	道は、堂などと、高い意、尾根の高い山のあるところ。 (例)下道・堂立	
122	おおいがわ	大井川	39609	四万十町	十和	大井野などのように、尾根に固まれた井堰のある小平地。 カワというのは水汲み場・水使い場(柳田説)	
125	おおむかい	大向	39609	四万十町	窪川	向の地名は、向側の土地の意と、峡の意も含まれているようである。川の大きな蛇行がある。	
127	おおほき	大保木	39609	四万十町	十和	大きながけ岩のところ。	
128	おおつるつ	大鶴津	39609	四万十町	窪川	対語で、小鶴津。戸→津の転で、小川のある狭いところ。	
138	おきつ	興津	39609	四万十町	窪川	興津からの改名。	
139	おきしげ	沖重	39609	四万十町	十和	沖は、集落の前方の意で「しげ」は樹木の茂っているところとみられる。	
154	おの	小野	39609	四万十町	十和	尾浦崎を小浦崎とも書くように尾根を開いたところで、小さい土地ではない。	
157	おりあい	折合	39609 39702	四万十町 四万十市	窪川	折野々、折付などの折は坂折などの折(坂を下りる)で、合は山間。 中村市(※四万十市)片魚の東伝氏によると、片魚の折付を指月など、県交通バス停はホノギ名に忠実でないといわれる。	

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
158	おやがうち	親ヶ内	39609	四万十町	窪川	尾谷、尾根の谷の、うと地。大きな入谷ではない。	
161	かがりや	かがりや	39609	四万十町	十和	かしぐら→かがりや 松煙(松から採取するもの)をとっている家のようなのであるが、山麓の岩谷で(やは谷)ある。	
170	かえでがわ	楓川	39609	四万十町	窪川	峡にできた分村、その川。	
171	かえさかもと	替坂本	39609	四万十町	窪川	峡の坂の麓。	
191	かつらだに	桂谷	39609	四万十町	大正	かたくら→かつら。堅い岩場の谷。	
197	かみあり	神有	39703 39609	宿毛市 四万十町	窪川	かみあら→かみあり。 神・雷には関係がなくて、上流にある開き地。	
206	かやぶくて	茅吹手	39609	四万十町	十和	ほき→ぶく。 茅地名は、土佐清水市下ノ加江(下茅)。西土佐村茅生(旧加用村)のように、舟の通うところにある。	
209	からすで	烏手	39609	四万十町	大正	「からす」地名のあるところは、俗に石ぐされの地質のところであり、佐賀町カラスト遺跡・同町鈴カラスト(地検帖下々畠荒)・土佐清水市大河内カラスト丸山などがある。 手は、鏡味説では分村といわれるが、舌状台地(出)と考えられる。	
212	かろうと	家籠戸	39609 39607 39702他	四万十町 梶原町 四万十市 他各地	窪川 十和	かりうと→かろうと。 かろうとの地名は、各地にあり、地形の共通していることは、小さい内地である。 焼畑のある入り谷と考えられる。その川地の集落。 宮本常一説では、この地名は、韓泊とあるが、『続山口県地名考』山間にある同地名にはあたらない。 中村市大西ノ川からうと・がら地の入り谷(うどのような谷)で、広域にある同地名を分類して研究することが正確な地名を探るために大切と思われる。	
216	かわのうち	川ノ内	39609	四万十町	大正	小川のある入り谷。(例)十和村河内(細々)	
218	かわおく	川奥	39609 39702 39701	四万十町 四万十市 黒潮町	窪川	川の上流にある集落。	
224	きたのかわ	北ノ川	39609 39606	四万十町 津野町	大正 窪川	北の方位の川の場合と、(できた)川岸の自然堤防の二つに分けられる。 中村市田ノ川北川は方位からと考えられ、大野見村喜田・大正町北の川は方位でなくて川岸にできた土地からと思われる。	
232	きんじょうの	金上野	39609	四万十町	窪川	きり→きん。焼き畑のある高い原野。	
236	くくつけ	久々付	39609 39702	四万十町 四万十市	十和	水衝部にある地名で、水の「くつつく」意からと思われる。	
246	くちごうのかわ	口神ノ川	39609	四万十町	窪川	こう→ごう。高い集落の入口の川。	

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
256	くぼかわ	窪川	39609	四万十町	窪川	中村市久保川なども同じ地形で、低地を川が流れていることからと思われる。高南台地の中心地で、藩政初期には、山内家の家老職が置かれていた。	
265	くりのき	栗ノ木	39609 39606	四万十町 津野町	窪川 葉山	河原石の小石を栗石というように、「くり」は岩や樹木の栗。(鏡味説)。石地のところの意ではないだろうか。	
271	くろいし	黒石	39609	四万十町	窪川	「くろ」は、石ぐろ・藁ぐろなどのように、小高いところ。石は、石地の土地のようである。	
278	こうのさい	神ノ西	39609	四万十町	窪川	高地の狭い土地。	
290	こうのの	神野々	39609	四万十町	窪川	「のの」の地名は、「ののさん」の信仰語でなくて、「なの」の転化と考えられる。高い原野のあるところ。	
292	ごおろ	ごおろ	39609	四万十町	十和	ごおら→ごおろ。 箱根の甲羅温泉・中村市上ノ土居ノベゴロー・愛媛県五郎駅なども、石地のところで、俗に石が「ごろごろ」していることから。(鏡味説も同じ)。	
293	こがい	小貝	39609	四万十町	十和	小さい峡の土地。	
300	ございしょ	御在所	39609 39703	四万十町 宿毛市	窪川	狭所のある山で、安在所の伝説がしやすい。	
302	こしろ	古城	39609	四万十町	十和	小さい山の平地で、カラスといわれていたが、昭和32年に山城にちなんで改名した。	
309	ごとまきだ	ごとまきだ	39609	四万十町	十和	中世田畑に蒔く種籾の量で、耕地の面積を表わし一般には反当5～6升播いたとあるが(鏡味説)、間木田(山間の小さい田)の意もあると考えられる。	
318	こめのかわ	米の川	39609	四万十町	窪川	小目の意で、小地を流れる川。	
319	こむろのはま ※ママ	小室の浜	39609	四万十町	窪川	小森や木地師の姓小椋などと同じ地形で、室地(山で囲まれたところ)その浜。古語で室寿という言葉がある。これは家屋の裏に室をつくり、土壁を塗り込めて寝所にした新築祝である。そのようなこもり場の意から、室(むろ)の地名が発生したと考えられる。※高知県地名辞典の読みかたは「おむろのはま」	
324	ごんげんばら	根元原	39609	四万十町	窪川	石地の開き地で、遺跡地がある。	
332	さいばら	西原	39609	四万十町	窪川	狭い原野、小さい開墾地。	
334	ざいけ	在家	39609	四万十町	窪川	寺の付近の農家(人家)。<参考>今在家(新しい集落)	
341	さきやま	崎山	39609 39702	四万十町 四万十市	十和	大用の崎山は、地検帖には、崎ノ山とある。さき(咲)は、開く意、山を開いたところ	
342	さくや	作屋	39609	四万十町	窪川	さく(ほざく)開くこと、屋は、谷や野の佳字である。開拓された谷地で、作小屋からではない。	
351	さねひろ	実弘	39609	四万十町	十和	さぬひら→さねひろ。狭い土地の傾斜地。	
364	しげとしやま	重利山	39609	四万十町	十和	樹木の多くある「とし」勾配のある山。重谷も同じ意。(※原本は大正町とある)	
370	しではら	仕出原	39609	四万十町	窪川	出は、手と同意と考えられる。手は、分村(鏡味説)四手と同じ地形で、川辺の舌状台地を開いたところで、縄文式土器の出土があった。	

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
371	しでざき	四手崎	39609	四万十町	十和	手は、川岸が出る(突出)意もあるのではないだろうか。水辺の土地の崎。四手は昭和と改名せられた。	
377	しまど	島戸	39609	四万十町	窪川	戸は、家屋。岩場のある狭いところ。 戸は、家屋の戸・瀬戸・岩戸・切戸などのように狭いところの意である。 しま(鏡味説の分類) ① 島・岩礁 ② 田のあるところ、川沿の耕地 ③ 村 ④ 林苑 ⑤ 琉球方言 田舎・村 ⑥ アイヌ語 しゅま(岩・石)	
393	しもつい	下津井	39609	四万十町	大正	①井津井谷のように、下流に崩地のあるところ。(例)大つい ②舟付場のあるところ。	
394	しゃくしとうげ	杓子峠	39609 39702	四万十町 四万十市	大正	しゃくじん→しゃくし。 石神のある峠(鏡味説)。 石神信仰は各地にあり、自然の石に神が宿るといわれた。「おさばいさん」も石神である。	
395	しもおか	下岡	39609	四万十町	大正	下流にある河岸段丘で、対語で上岡がある。	
404	しょうがの	勝賀野	39609	四万十町	窪川	しあけの→しょうがの。 方言で、あらせることを「しのけ」という。原野を開いたことから。	
411	しわ	志和	39609	四万十町	窪川	し(水辺・海辺)わ(輪)。浦が丸いことから。	
412	しんがい	新開	39609 39702	四万十町 四万十市	窪川	改・貝も同じ地形で、新しく開拓されたところ。(新びらき)(鏡味説)	
433	せり	瀬里	39609	四万十町	大正	瀬のある集落ということから地名がでたのではなくて、せり出すなど、芹川(狭間の川)などのように狭間の人家のあるところと思われる。	
461	たけのたに	竹ノ谷	39609 39704 39606	四万十町 大月町 津野町	大正	がけ地の谷	
479	たのの	田野々	39609 39607	四万十町 梶原町	大正	たなの→たのの。段丘のある開き地。	
499	ちょうじゃだば	長者駄馬	39609	四万十町	窪川	頂上→ちょうじゃ。 仁淀村長者などのように、山岳の高地にある地名で、長者屋敷とか長者の墓などの伝説がよくある地名である。鏡味説ではチョージャ長者(金持ち)の伝説(土器・石器・焼米など出土するものもある)にちなむ。とあるが、山の頂上にある平坦地と考えられる。	
500	ついわ	追和	39609	四万十町	十和	(潰い)崩地が丸い形をしているところ。扇状地。	

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
505	つがのかわ	津賀ノ川	39609 39703	四万十町 宿毛市	十和	とがの→つがの。 狭間の開き地。斗賀野と同じ意。	
506	つが	津賀	39609 39702	四万十町 四万十市	十和	つか→つが 水の水衝部にあり、舟付場。	
510	つづら	葛籠(川)	39609 39703	四万十町 宿毛市	大正	①かづら→つづら かづらのあるところ。 ②つづら折の道など、まがり道のあるところ。	
520	つるいたに	つるい谷	39609	四万十町	大正	水路のある谷で、鶴がいる谷ではない。	
528	てらの	寺野	39609	四万十町	窪川	平坦な丘陵地。	
544	どうがもり	堂ヶ森	39609 39702	四万十町 四万十市	十和	峠によく堂の漢字を使用されている。中村～下山(上山)郷の往還道で、山上に地藏堂がある。昔は、祭日に老若男女の参拝が多くあったといわれる。標高857mで信仰の山である。	
547	どうとく	道徳	39609	四万十町	窪川	どう(堂)高いところ、徳は床の意。	
550	とどろ	轟	39609	四万十町	十和	川音の高いところ、とどろくところにあるが、山間の轟は、おどろの意	
552	とうかわ	十川	39609	四万十町	十和	大野からの改名。	
553	とおわそん	十和村	39609	四万十町	十和	十川村と昭和村の合成村名。	
554	とかわ	戸川	39609	四万十町	十和	狭間を流れる川。その吐け口。	
556	とこなべ	床鍋	39609 39607	四万十町 梶原町	窪川	なみ→なべ おしなべてのなべと思われ、ならば意ではないだろうか。七子峠から西の狭間であるが、起伏がない小平地が続いている。床は川床などのように石地。	
561	とみおか	富岡	39609	四万十町	窪川	とも→とみ 分村(鏡味説)のある丘陵地。	
564	とりうちば	鳥打場	39609 39702	四万十町 四万十市	大正	戸里 狭間のところ、鏡味説では、鳥の越すところ。	
583	なかじま	中島	39609	四万十町	十和	大井川の奥にある集落であるが、奥の方にあるしま(がけ岩)で、川の中にある島ではない。一説にしまは、集落。	
584	なかつかわ	中津川	39609	四万十町	大正 窪川	なかと→なかつ。 梶原川の支流である中津川沿の集落で、中津川溪谷の上流である。川舟の利用からとも考えられるが、土地を狭間の(戸)土地を流れる川。この上流が森ヶ内である。	
605	ななことうげ	七子峠	39609	四万十町	窪川	なりこ→ななこ。 こ(戸)狭いところ。土地の狭い開き地の峠。七子峠には、仁井田七郷からの転説を採用している。古語(たわ・たお) ななごう→ななこ	
608	なる	奈路	39609	四万十町	窪川	なるい土地、平坦地の地形語である。土地をならず(鏡味説)	
609	にいだ	仁井田	39609	四万十町	窪川	①仁井田神社、新(開き地)の耕地。 ②湿田、仁井田米の産地。	

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
610	にいだまた	仁井田又	39609	四万十町	十和	湿田の谷間。	
617	にしのかわ	西ノ川	39609	四万十町	窪川 大正	西の土地を流れる川どころ。	
618	にしかわづの	西川角	39609	四万十町	窪川	西側の川沿の舟付場。対語で東川角。中村市不破まかど「ほのぎ」などのように、角地名は、曲がったところや突出した地形語。	
624	ぬたくぼ	ぬたくぼ	39609	四万十町	十和	湿気のある窪地(猪のぬた場)	
626	ねねざき	根々崎	39609	四万十町	窪川	仁井田川と松葉川の合流した崎で、岩根の先端。	
630	のじ	野地	39609 39703 39702	四万十町 宿毛市 四万十市	窪川	①猪や鹿の通る路。(鏡味説)。 ②のし→のじ 山麓の湿地。 <参考>野地田(下々田)水付の低い原野に散在する田のこと。日本史用語大辞典(柏書房)	
638	はげたき	はげたき	39609	四万十町	十和	がけ地の急斜面	
651	はっせんず	八千数	39609	四万十町	窪川	ほつ→はつ さん→せん(小山) 「ず」は「す」の湿地の意で、数字ではない。良産米の土地。	
652	はっそく	八足	39609	四万十町	大正	そぐ→そく がけの深い谷間の土地。「そぐ」は物をそくなどの意で斜面。 大奈路から分岐して、中津川沿の最初の集落である。	
653	はりぎ	針木	39609 39605 39702	四万十町 須崎市 四万十市	大正	<万葉集>新墾の今つくる道さやかに聞きにけるかも妹が上のこと 新しい開き地。	
656	はらいがわ	払川	39609 39702	四万十町 四万十市	窪川	川や泉は住民の生活用水であり、奈良地方には、川を払う行事も残っているが、そうした意でなくて、はばら→はらい ばら積みなどのように小石のある川と考えられる。(※窪川の払川は五社に流れる川。大正の下津井仁井田神社の若水取りの谷川)	
658	はんのかわ	飯の川	39609	四万十町	窪川	ねんど地の川どころ。	
659	ばんしょだに	番所谷	39609	四万十町	十和	道番所(国境番所)の庄屋によって通行人を検閲した役宅からである。	
663	ひうちがもり	火打ヶ森	39609	四万十町	窪川	ほ→ひ 小きいしわ谷のある山。	
667	ひがしかわづの	東川角	39609	四万十町	窪川	東の川辺の舟付場。	
668	ひさはら	桧生原	39609	四万十町	窪川	「ひさ」は三原村久繁などのように樹木のあるところで、樹木の繁茂した開き地。	
672	ひのじ	日野地	39609	四万十町	窪川	日当たりの良い原野。	
678	ひらの	平野	39609 39702	四万十町 四万十市	窪川	海岸段丘で、耕地にはあまり適していない地質である(四万十市平野)	
681	ひろせ	弘瀬	39609	四万十町	大正	弘も広も同義で、広い川の瀬のところにある。四万十川が大きく蛇行して広い耕地の ところの川名	
682	ひろせ	広瀬	39609	四万十町	十和	広い川地のところで、この土地の竹屋敷遺跡は、宿毛貝塚と同時代の遺跡といわれ、石斧・石鍛・石錘などを出土している。	

「西南の地名」岡村憲治著

四万十町関連の地名

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
684	ひろみ	広見 ※ママ	39609	四万十町	窪川	「ひろみ」地名のあるところは、広く展望のできるどころの地名である。張木村といわれていた記録がある。(甲把瑞益著) <参考>張は針と同義と考えられ、開墾の意である。(※正しくは「弘見」)	
689	ふきのみね ※ママ	吹の峰	39609	四万十町	大正 十和	ほき→ふき がけの山。標高700m。 ※高知県地名辞典の読みかたでは「ふきのとー」	
696	ふじのうえ	藤の上	39609	四万十町	十和	四万十川!の川淵にある地名で、淵の上にあるところ。	
697	ふじのかわ	藤の川	39609 39702 39706	四万十町 四万十市 土佐清水市	窪川	淵のある川沿の集落の意と考えられ、平家落人の伝説などがある。(西土佐)	
725	ほき	保喜 (保木)	39609 39701 39702	四万十町 黒潮町 四万十市	十和	ほっけ→ほき 川辺のがけ岩の土地にあり、鬼ヶ保木などのように「あぶない」土地などと使用され、小さい危険な土地。	
735	ほりきり	堀切	39609	四万十町	十和	「ほり」、「はり」は同義。開拓の「きり畑」。	
738	ほんどう	本堂	39609	四万十町	窪川	丘陵の小高いところ	
745	まきだ	まきだ	39609	四万十町	十和	① ~まきだ 種籾を直播した地力の低い田。 ② 間木田 山間の開き田からで、全部が直播きしたことからはではない。	
757	みこのかわ	巫女の川	39609	四万十町	窪川	水戸(みこ)・水谷の狭いところを流れる川どころで、巫女からではない。	
759	みさきやま	三崎山	39609	四万十町	窪川	み(美称)美しい崎の山。	
762	みつけ	見付	39609	四万十町	窪川	① 近世の城の番兵の見張るところ。(鏡味説)地名研究家横井清氏の調査によると、江戸城の回りには36見付があった(赤坂見付)。 ② 日本史用語辞典には、江戸時代田地の地目を示す用語で、みつけ田(生産の低い田)とある。 みづけ→みつけ の転で、湿田の意ではないだろうか。	
773	みねのうえ	峰ノ上	39609	四万十町	窪川	山頂の土地	
783	むつかわやま ※ママ	六川山	39609	四万十町	窪川	山に登ることが、できにくいことからでは。 ※正しくは「むかわやま」	
786	もんじゅどう	文殊堂	39609	四万十町	窪川	文殊菩薩を安置した堂床からの名である。	
795	もりがうち	森が内	39609	四万十町	窪川 大正	山間の入り谷。中津川の上流にある集落。尾根越えの窪川町にもある。	
798	やなせ	柳瀬	39609 39703	四万十町 宿毛市	十和	竹書房刊『国鉄全駅ルーツ大辞典』池田末則著には、柳・築も同じ意で、木または、柴や竹をならべて魚をとること。	
802	やぶがみ ※ママ	藪神 ※ママ	39609	四万十町	窪川	谷の深いところの上流。 ※数家(かづこう)のことか	
805	やまかぶ	山株	39609	四万十町	窪川	山が一方に張り出ている地形語(鏡味説)であるが、山麓の意(山の下部)	
814	ゆのかわ	柚ノ川	39609	四万十町	窪川	開き地を流れる	
825	よつじ	与津地	39609	四万十町	窪川	谷津地→よつじ 湿地の谷間	

No	よみ	地名	コード	所在 市町村	細区分	岡村氏の解説文	キー用語
826	よつみちとうげ	四道峠	39609	四万十町	窪川	猪や鹿の通る道、うじろの峠。	
829	ろくろうだに	六郎谷(ろくろう谷)	39609 39706	四万十町 土佐清水市	大正	山麓の道谷からで、きじや(木の細工師)の谷ではないように考えられる。	
837	わかいがわ	若井川	39609	四万十町	窪川	① 湧水のある川。 ② 分村の小高いところを流れる川名から。	